

平成二十四年度 入学試験問題（二次）

国語

（時間 五十分）

〔注意事項〕

- 一 試験開始の合図まで開けてはいけません。
- 二 受験番号・氏名を解答用紙に記入しなさい。
- 三 試験問題は五題あります。問題がぬけていたり、印刷がはっきりしない場合は申し出なさい。
- 四 解答は解答用紙に記入しなさい。
- 五 解答用紙だけを提出しなさい。

次の——線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- 1 筆者の意図を読み取る。
- 2 使い勝手がよくて重宝する。
- 3 社へお参りに行く。
- 4 自ら行動を起こす。
- 5 勢いよく飛び出す。

次の——線部のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- 1 二つの仕事をヘイコウして進める。
- 2 新政権がジュリツする。
- 3 自分の名前をトウロクする。
- 4 顔を洗って目をサます。
- 5 ほおを赤くソめる。

「ベンチプレスといつてな、バーベルをあげるんだが、おれは二百キロで練習してる。」

「二百キロ……。」

タケルは息を **1**。

「な？ 人間じゃねえんだ。怪物だよ、怪物。そんなのが本気出しあつて戦つたらどうなる？ 殺しあいだよ。」¹ それをやらぬのを八百長^{やちよう}だつていうんなら、八百長だわさ、たしかに。」

すっかり感心したタケルは、**2** をうしなつて、牛之助の首すじにもりあがつた筋肉を見つめていた。

それとは対照的に、下田くんのはうはずつと無口で、どちらかといえば、お父さんから目をそらせているような感じがあつた。

牛之助はごはんがおわると鼻歌をうたいながら、台所でお母さんの洗いもののでつだいをはじめた。そのうちにおさらを—まいわつて、お母さんにしかられ、しきりにあやまつた。² タケルはふきだしそうになるのをけんめいにこらえていた。

タケルが思いだしわらいをしそうになつたそのとき、テレビの画面から勇壮^{ゆうそう}なロックの曲が流れてきた。試合がはじまつたのだ。キラキラかがやくガウンをまとつたジャイアント古葉が、何人ものつき人にガードされながら入場する。身長二メートル七センチ。東洋の巨人とよばれ、二十年近くもトップの座をまもっているレスラーである。テーマ音楽が一転して、なにやらホラー映画のようなぶきみなひびきの曲にかわつた。反対側の通路から、下田牛之助の入場である。お

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(ただし、抜き出して答える問題では、句読点等は一字として数えないこと。)

タケルは友人の下田くんの家の本を借りに行き、そのまま遊んでいた。なぜか下田くんはタケルに早く帰ってもらいたいようすだったが、しばらくすると下田くんのお父さんが帰ってきてしまった。下田くんのお父さんは有名な悪役レスラーの下田牛之助だったのだ。

「ぼく、ちょっとこつちへきて、おれの腹にさわってみろ。」

タケルは近づいて、牛之助がさしだしたおなかをこわごわさわってみた。それはふつくらまるい外観とはちがつて、石のようにかたかつた。

「おもいつきりなくつてみる。」

「え？ でも……。」

「いいから、なぐつてみる。」

タケルはいわれるままに大きなモーションをとると、全身の力をこめて、そのおなかをなぐつてみた。とたんにセメントのかべでもなぐつたような手ごたえがあつて、うで全体にじーんとしびれがきた。

「しびれたらう。毎日バットでひっぱたいてもらつて、きたえてるからな。うでだつて、ほら、見てみる。」

と、牛之助はゆかたのそでをまくつて、力こぶをつくつてみせた。それはおとなの男の人のどうまわりくらいあつた。

客さんが左右に道を大きくあけて、遠まきに牛之助をながめている。

牛之助は、中世の騎士^{きし}のよろいのようなものを上半身につけている。そのよりの肩のあたりについたパイプからシューシューと火花がふきだしている。火花がしかけてあるのだろう。ふりみだした金髪^{きんぱつ}の下の顔は、^{*}ドーランで白ぬりにしてあり、目のまわりと口のまわりにまっかなくまどりがしてある。

赤いくちびるから、ときどきみどり色にそめた舌をヘビのようにチロチロツと出してみせる。手にもつているのは、くさりがまだ。そのくさをブンブンふりまわすので、お客さんはあわててにげまどつている。

タケルはこのちんみょうなかつこうを見ていて、なんとなく、さつきまでのわくわくした気分がさめていくような気がした。**3** と思つた。

4 場内の客をおどかしてまわつた牛之助は、やつとリングにあがると、中央で待っているジャイアント古葉のまえに仁王^{におう}立ちになつた。にらみあうふたり。タケルは、落ちかけた気とりなおして画面を見つめた。

³ と、いきなり牛之助が、口からみどり色した霧^{きり}をプツと古葉の顔にふきつけたではないか。

ひたいをおさえたレフェリーの合図で、ゴングが乱打される。反則による試合終了だ。それでも牛之助は古葉の首をしめあげている。さらに、古葉のひたいにまでかみついた。

おこつた古葉は、やつとくさをほどいて立ちあがると、牛之助の

胸に空手チョップを打った。ペチッ、とへんな音がしたが、牛之助はおおげさに苦しんで胸をおさえる。リングの上に、客席からミカンやコーラのかんなどが飛んできた。場内アナウンスが聞きとりによくい声で、

「お客さまにお願いします。リングにものを投げないでください。」とわめいている。

タケルはそこまで見ると、テレビのスイッチを切った。⁴ なにかうらぎられたようで、とてもかなしい気分だった。見なければよかった、と思った。下田くんが自分のお父さんのことをかくそうとしたり、冷たい視線を投げかけたりしていた理由が、はつきりとわかってしまったからである。

タケルが牛之助のすがたを見たのは、それから一週間後のやはり日曜日のことだった。

その日、タケルはお父さんと映画を見たあとで、駅の近くのファミリーレストランにつれていってもらった。好物のエビフライを口に運ぼうとしたところで、うしろのほうから、

「なんだと、もう一度いってみろ！」

という大声が聞こえた。びっくりしてフォークをおき、ふりかえって見ると、うしろにおかれたゴムの木の葉っぱごしに、牛之助と下田くんのすがたが見えた。

牛之助はこわい顔で下田くんをにらんでいる。が、下田くんも負けずにお父さんをにらみかえしている。

「そうだね。」

「世の中なんて、みんなそれぞれの役割でなりたつんだ。便所そうじをさぼって、花の当番ばかりしたがるやつがすきか？」

「いや。」

「みんな自分の役割をはたすために、つらい思いもするんだ。おれが毎日毎日バットで腹をなぐらせたり、砲丸ほうがんを腹の上に落とさせたりしてきたてるのはなんのためだと思う？」

「強くなるためでしょ？」

⁶「すこしちがう。トレーニングをするのはな、(ケガをしない)ためだ。」

「……………」

「おれたちの商売はな、一年で二百回も試合をして旅をするんだ。ケガをしてしまったら、それでもうめしの食いあげだ。それにお客さんにも会社にもめいわくがかかる。だから、なぐられても、けられなくてもケガをしないようにきたえるんだ。」

「ふうん。」

「どうだ。これでもおれのことを尊敬できないか。」

「できない。」

「なに??」

「だって、お父さんは、オリンピックにまで出たアマチュアレスリングの選手だったんでしょ？」

「そうだ。」

「じゃ、どうしてそのスポーツの世界で、コーチになるなりして、

「もう一度いえばいいんだね。ぼくはお父さんを尊敬していない。そういったんだよ。」

「それが、自分の父親に対していうことばだと思うのか、え？」

「親だから尊敬しろっていうのはりくつになつていないよ。尊敬できる親と、そうでない親とがある。それがあたりまえなんじゃない？」

「ほう、じゃ、聞か、おまえは、おれのどこがそんなに尊敬できないんだ。」

「どこがって……。どこを尊敬しろっていうんだよ。」

「なにを?!」

⁵「四十三歳になつて、みどり色の霧をふいたり、くさりがまをふりまわしたりしている父親のどこを尊敬するのさ。」

「おまえ、おれがああいうことを、本気でよろこんでやってると思つてるのか。」

「いいえ。ぼくはそんなに幼稚ようちじゃないよ。お父さんは商売だから、ああいうことをやっているんでしょ？」

「そうだ。考えてみる。たとえばギャング映画をつくるのにだな、出る役者みんながみんな、善玉の役をやりたいといいだしたら、どうなる? 映画ができないだろう。お客さんが楽しんでくれるものにするためには、そういう、損な役まわりをする人間が必要なんだ。」

「そうだね。」

「おまえのいつている小学校だって、そうだろう。花のせわをする当番の子もいれば、便所そうじの当番にあたる子もいるんじゃないのか。」

つづけなかったの?」

「それは……………」

「かわりにいつてあげようか。ほんとのスポーツの世界には、ほんとの勝ち負けがあるからなんだ。」

「……………」

「お父さんは、そのほんとうの勝ち負けのある世界に、ずっといるのがこわかったんだ。だから、みどり色の霧をふいていけば、どっちが強いかよくわからない世界へにげたんだ。だから、尊敬できない。」

「カズオ……………」

⁷「ぼくはそうやって、花の当番ばかりしているお父さんみたいにはなりたくない。ぼくはぼくで、ちゃんとにげられない勝ち負けのある世界へいくよ。体を使ってじゃなくて、頭を使ってだけだ。だから勉強するんだ。」

「カズオ……………」

「ぼく、先に帰ってるよ。」

下田くんはそういうと、すつと席を立って、おもての自動ドアから出ていった。

あとにひとりのこされた牛之助は、目のまえにおかれた半分食べかけのハンバーグのさらを、それが冷えきってしまうまで、じつと見つめつづけていた。

タケルはそのさびしそうなすがたを見ると、なんだかなみだが出てきそうになったので、あわてて目をそらせた。

問五 — 線部2「タケルはくちくちく」とありますが、このときのタケルを説明したものとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 牛之助のたくましい肉体にとっても感動し、そんな牛之助が皿洗いという細かい手作業をしている姿におどろいている。
- イ 有名な牛之助に会えたことで夢中になり、牛之助が洗いのを手伝っているのを見るだけでも喜びをかくせないでいる。
- ウ 悪役レスラーの牛之助を間近で見ているふんし、皿をわけてしまったことといつもの試合での姿との差にとまどっている。
- エ 強くて気さくな牛之助のことがすっかり好きになり、妻にあやまる牛之助の意外な一面にもふれて好感を持っている。

問六 □3に入る一文として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア こんな〈子どもだまし〉のかっこうをしなくても、おじさんはじゅうぶんに強そうなのに……
- イ こんな〈子どもだまし〉のかっこうをして、強そうに見せているだけじゃないか……
- ウ こんな〈子どもだまし〉のかっこうをしても、すこしも強そうじゃないな……
- エ こんな〈子どもだまし〉のかっこうをして、おじさんは強そうに見えると思っっているのかな……

問九 — 線部5「四十三歳にうしてゐる」とありますが、牛之助がこのようにことをする目的を表した部分を文章中から二十字以上二十五字以内で抜き出し、その最初と最後の三字で答えなさい。

- 問十 — 線部6「すこしちがう」とありますが、このちがいを説明したものとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
- ア 強くなることに変わりはないが、いやな役回りも引き受けられる心の強さと強い肉体を身につけるということ。
 - イ 強くなることに変わりはないが、相手に勝つために強くなるのではなく選手生命を長く保てる強い身体を作ること。
 - ウ 強くなることに変わりはないが、けがをしない身体を作るだけでなく家族を守る精神的な強さも備えるということ。
 - エ 強くなることに変わりはないが、相手を打ち負かす強さだけでなく一年で何試合も戦える技術もつけるということ。

問七 — 線部3に続く文の順番として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- 1 くさりがまのくさりで古葉の首をしめあげている。
- 2 その上から牛之助がおそいかかった。
- 3 あわてて止めるに入るレフェリーを、こんどはくさがまのえのところまでコキンとなぐった。
- 4 目つぶしをくらった古葉は、顔をおさえてその場にうずくまる。

- ア 3 ↓ 1 ↓ 2 ↓ 4
- イ 2 ↓ 3 ↓ 4 ↓ 1
- ウ 4 ↓ 2 ↓ 1 ↓ 3
- エ 4 ↓ 3 ↓ 2 ↓ 1

問八 — 線部4「なにかう気分だった」とありますが、この理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 牛之助が勝つことをあきらめて反則ばかりしていたから。
- イ 牛之助は変なかつこうをして観客からきらわれていたから。
- ウ 牛之助は気のいいおじさんなのに悪役の演技をしていたから。
- エ 牛之助がきたえあげた肉体で戦わず八百長をしていたから。

問十一 — 線部7「花の当番うお父さん」とありますが、このことばにこめられた意味を説明したものとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 牛之助は毎日つらい思いをして練習しているけれど、実際の試合は初めから勝敗が決まっている八百長だということ。
- イ 牛之助は損な役回りを引き受けているけれど、本当の勝ち負けのあるきびしい世界からにげているということ。
- ウ 牛之助は変なかつこうをしなければならぬけれど、それほどいやな役回りでもないということ。
- エ 牛之助は悪役としていやな役割を引き受けなければならないけれど、ケガさえしなければ収入が安定しているということ。

問十二 — 線部9「でもな、もういいんだ」とありますが、牛之助が

こう言った理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 長年けがをせずつらい練習にもたえてきたのに息子が尊敬して
いないことを知り、息子に真剣な姿を見せることを第一に考
えたため。

イ 長年ひたすら練習してきたのに息子が軽蔑していることを知り、
最後に強敵と戦ってボロボロに負けてから引退しようと思った
ため。

ウ 長年家族のために身体をきたえてきたのに息子が仕事に理解を
していないことを知り、ほかの何よりも試合に集中しようと思
えたため。

エ 長年リングに立てなくなる不安を感じ続けてきたのに息子が悲
しい思いをしていることを知り、不安に負けてはいけな
いと思
ったため。

問十三 この文章の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答

えなさい。

ア 牛之助は家族の生活のことを第一に考えて毎日身体をきたえて
悪役レスラーとして活やくしてきたが、下田くんには父親がま
じめに仕事をしているように映らなかった。

イ 牛之助が派手でちんみょうなかつこうをしているのは、プロレ
スで家族を養っていけるようにわざと損な役回りをしているた
めであるということに下田くんは気づいていなかった。

ウ 下田くんは牛之助が子どもだましのようなことはかりしている
ことを苦々しく思っており、家族の生活のことよりも父親が身
体をはって本気の勝負をすることを願っていた。

エ 下田くんは牛之助が試合で八百長をすることを快く思ってお
らず、たとえプロレスに悪役が必要だとしても正々堂々と戦おう
としない父親のことをはじだと考えていた。

四

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(ただし、抜き出
して答える問題では、句読点等は一字として数えないこと)。

〔I〕 東京近郊の北側には秩父の山をはじめとするこんもりとした森があ
り、南側には東京湾があります。山の森と、東京湾の水と、南北で二
つの熱源があるのです。

夏は、南北に冷えた冷熱源が二つできるわけです。二つの冷熱源に
はさまれたところでは、温度差によって海陸風が吹きます。

昼間は内陸のほうが暑くなり、海の方が温度が低いので、内陸の暑
いほうに海の冷えた空気がスーッと引つ張られます。だから昼間の風
は、東京では南風なのです。夜になると、今度は海よりも内陸の山
のほうが温度が冷えてくるので、山のほうから冷えた空気がスーッと流
れてきます。

そのように、街は呼吸をしているわけです。

その呼吸をつなげてきたのが、街中の緑であり、川だったのです。

〔A〕、昔も暑いには暑かったのだけれど、クーラーがなくてもな
んとか過ごせたのです。打ち水をして簾を吊って、川風に吹かれて
「夕涼み」なんていう風情もあったわけですね。〔B〕今は、クーラ
ーなしではとてもではないけどやっていけない。それほど都市部の温
度上昇が、激しくなってしまったのです。

それはなぜかといえば、二つの冷熱源をつないでいた、緑や川や、
そういうものがどんどんなくなってきているからです。さらに、川が

〔II〕

このように、わずか四十年の間に街の環境は一変してしまいました。
時代時代を見ていくと、どうもじよじよに変化してきているのではな
くて、どこかで不連続に、ガラッと価値構造が変わる瞬間がありま
す。どう考えても、一九六十年代から七十年代より前の時代と現代と
は、都市の価値構造が違う。その価値構造の枠組みのことを「パラ
ダイム」と呼びます。

街は無〔C〕状態に陥ってしまったのです。

現代の環境問題とか都市環境について考えるときに、「パラダイム」
の変化にそった見方をするのが、時代を把握するのに重要だと、ある
とき私は気づきました。パラダイムが変わる瞬間、何が価値を変えた
のかということを見極めてくると、今の都市構造が見えてくるのです。
そこで、都市の過去と現在を、私は次のような二つのパラダイムに
分けて整理してみました。

過去 — 「依存型共生」

現在 — 「自立型孤立」

過去の集落を成り立たせていたパラダイムのことを、私は「依存型
共生」と名づけました。

「依存型」というのは、技術が依存型だということですが。

5 住宅が単体では成立し得ないような依存型の技術しかなかった時代には、それを補うために必然として「共生関係」が生まれます。台風対策として防風林を必要とする、備瀬の木造住宅などは、その典型です。

現代は、技術の進化によって、高度成長期時代を境にパラダイムが一気に変わりました。依存型の技術が自立型の技術にガラッと変わる瞬間があったのです。一気に自立型技術に変わっていった、その自立型の技術をどんどん進化させてきたのが、現在の我々の暮らしです。⁶自立型の技術を手に入れてしまうと、もはや我々は、環境や隣人と共生する必要がなくなり、自分だけでよくなります。その結果として、家人も孤立していきます。ですから現代のパラダイムを「自立型孤立」と名付けました。

〔Ⅲ〕 このようなパラダイム論で考えると、結構いろいろなことが見えてきます。⁷現代の都市の環境問題、特にヒートアイランドに代表されるような熱環境の問題は、まさにこの「自立型孤立」というパラダイムが作り出した必然として見えてくるのです。

自立可能な技術を得ると、個人はもはや外環境とも他人とも関係を持つ必要がなく、孤立した住環境を作ります。^{*}ランダムな住まいづくりは、街全体に調和のない、レベルが高いとはいえない景観を広げていきます。その延長線上に、ヒートアイランドという問題もあるのです。現代の都市問題は、ほとんどこの枠組みにあるということがいえると思います。

いる私も皆さんも、そのデメリットには今は気づきません。でもやがて年をとり、誰かに依存しなくては生活できなくなります。そのときに、外との関係をどんどん絶って生きてきた人たちは、Dという悲惨な状況に立たされるわけです。

先にも述べたように、昔の住宅は不便でした。その「不便さ」を補うためには、外に対して働きかけることが重要でした。その外への働きかけが、豊かな外の環境を作り上げていました。つまり、「不便さ」が「豊かさ」を作っていたのです。ところが、現在の住宅のように「便利」になると、「不便さ」を補う必要がなくなります。この結果、外との関係性を絶つわけです。外に対しての働きかけがゼロになると、外に「豊かさ」は生まれません。〔1〕

つまり「便利さ」を手に入れてしまうと、もはや我々は「豊かさ」を手に入れられない。そういう状況になっているということが、パラダイムを整理してわかることです。〔2〕

この場合によく出るのが、「進みすぎた技術によって『豊かさ』を失っているのであれば、もつと伝統的な、ローテクを使っていた昔の暮らしに戻ればよい」という、伝統回帰的な意見です。しかし、パラダイムの特質を考えると、それは不可能です。パラダイムというのは、一度先に進むと過去には戻れないという特質があるからです。「便利さ」を知ってしまった今、もう一度みんな不便な生活に戻りましょうといったも、非現実的な話です。〔3〕

そうになると、少し暗い気持ちになりますね。「便利さ」を手に入れられても、もう永遠に「豊かさ」は手に入らないのか、と。でも、実

環境問題だけではありません。^{*}コミュニケーション問題も同じことで解けます。社会的弱者である子どもや独居老人のさまざまな問題は、現代人の孤立したライフスタイルが前提になったものです。

エアコンで簡単に温度調節ができ、電話もテレビもオーディオも個人で使うものとなり、欲しいものはネットで注文すれば届けてくれます。他人との関係を結ぶことなしに、個人は贅沢で便利な生活ができるようになりました。そうになると、もはやコミュニケーションは必要なくなります。

昔は外とつながっていなければ、個人単位では生きていけませんでしたが。⁸街全体の関係性の中で暮らしていたので、人間関係も濃厚でした。ところが、それが一気に変容して、個人単位で自由を謳歌できるライフスタイルができあがりました。便利で、個人が自立した生活は、非常に価値のあるものだと思いきや思いませんでした。しかし一方で人間関係は失われ、地域のコミュニティも希薄になりました。便利で個人主義的な価値を手に入れることは、関係という価値を失うことでもあったのです。その結果として浮き彫りになってきたのが、子どもや老人など、社会的に弱い立場の人たちの問題です。

子どもが犯罪に巻き込まれやすい。それは地域のコミュニケーション防犯能力が下がっているということです。あるいは独居老人がまったくケアされることなく、発見された時には死後何ヶ月も経っていた、という状況も増えてきています。

つまり、現代の枠組みからは、弱い立場の人たちがマイナス点を受けけるのです。若くて元気のある、今まさに個人主義的自由を謳歌してはそうではありません。¹⁰パラダイム論の特質に従うと、もつと楽観的になれるのです。〔4〕

〔Ⅳ〕 パラダイムというのは、同じパラダイムがずっと固定することは絶対にありません。今のパラダイムは、どこかの段階で、また次なるパラダイムに移行します。移行する先がどう変わるのかを議論することが重要なのです。

今の都市環境のいろいろな問題の根源は、「孤立している」という状況です。おそらく新しいパラダイムは、自立型の技術がさらに追求されていく一方で、同時に、孤立し合っている状況をいかに「共生」という方向に持っていけるか、ということが重要になってくると思います。要するに「自立型」の技術と「共生型」の工夫とを両方成立させていくというのが、次に来るであろう新しいパラダイムだと私は思っています。その次なるパラダイムを「自立型共生」と名付けました。「便利さ」も「豊かさ」もどちらも同時に獲得できる。これまでになかった、そんなパラダイムへ移行するためにはどうしたらいいのでしょうか。

その決め手は関係を価値化することだと私は考えます。個人単位で、全く関係性を絶つても自立できるというところに自立型の価値の意味があったわけですが、その自立型の価値も捨てずに、もう一度関係の価値を両立させるということで、新しい価値が生まれるはずですが。便利さはそのままに、関係性を丁寧につくると、「豊かさ」と「便利さ」の調和のとれた世界が生まれるはずだと私は思います。

*備瀬＝沖繩の地名。

*ランダムな＝無作為の。不規則的な。

*コミュニティ＝地域共同体。

*ライフスタイル＝生活のかたち。

*デメリット＝短所・欠点。

*ローテク＝低いレベルの技術。

問一 —— 線部1「重要」2「高層」とありますが、これらの熟語の成

り立ちを説明したものととして最も適切なものをそれぞれ次の中から

選び、記号で答えなさい。

ア 同じ内容の字を重ねている。

イ 反対の内容の字を重ねている。

ウ 上の語が下の語を修飾している。

エ 下の語が上の語を修飾している。

問二 A・Bにあてはまる語として最も適切なものをそれぞれ次

の中から選び、記号で答えなさい。

ア すると イ だから ウ ところが

エ さらに オ また カ なぜなら

問三 Cに入る適切な語を文章中より漢字二字で抜き出して答えな

さい。

問四 —— 線部3「依存型共生」4「自立型孤立」の特性を説明したも

のとして最も適切なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えな

さい。

ア 「便利」であるが「悲惨である」

イ 「便利」であるが「関係が薄い」

ウ 「便利」であるが「わずらわしい」

エ 「不便」であるが「環境によい」

オ 「不便」であるが「自由である」

カ 「不便」であるが「つながっている」

問五 —— 線部5「住宅が生まれまゝ」とありますが、どのようにし

て補っていたのかを表している部分を(Ⅲ)の文章中から十字で抜き

出し、その最初の三字で答えなさい。

問六 —— 線部6「自立型のゝ入れてしまう」とありますが、この内容

を具体的に表した一文を(Ⅲ)の文章中から抜き出し、その最初の三

字で答えなさい。

問七 —— 線部7「現代のゝ見えてくるのです」とありますが、「自立

型孤立」というパラダイムが熱環境の問題を作り出す理由として最

も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 現代の孤立した状況では周囲との関係性も薄くなり、個人が勝

手に行動するようになって環境のことに無関心になってしまっ

たから。

イ 現代の孤立した状況では個人が周囲と共生する必要がなく、住

宅も統一感のないものになって環境との共生も絶ってしまった

から。

ウ 現代の孤立した状況では周囲を気にすることがなく、個人が他

人の行動に無関心になってそれぞれに調和のない家を建ててし

まったから。

エ 現代の孤立した状況では個人が周囲に頼ることがなくなり、住

宅が単体でも成立するようになって街全体の景観を無視したか

ら。

問八 —— 線部8「街全体のゝ濃厚でした」とありますが、濃厚な人間

関係にある街の状態を別の表現で表した部分を(Ⅲ)の文章中から七

字で抜き出して答えなさい。

問九 Dにあてはまる語として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 依存型孤立
- イ 自立型孤立
- ウ 依存型共生
- エ 自立型共生

問十 —線部9「もはや入れられない」とありますが、このことを解決するためにどうすればよいかを表した部分を【IV】の文章中から八字で抜き出して答えなさい。

問十一 —線部10「パラダイム論のくなれるのです」とありますが、この理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア パラダイムというのは同じ状況が絶対に続かないが、価値観が変わることで再び「豊かさ」のある時代に回帰できるから。
- イ パラダイムというのは二度と過去には戻れないが、現代の環境問題を考えれば人は少々の不便な生活にもたえられるから。
- ウ パラダイムの特質は過去には戻れないということだが、「便利さ」に代わる新しい価値観を探せば問題を解決できるから。
- エ パラダイムの特質は過去の不便な生活には戻れないということだが、新しくよりよい段階へと移行することはできるから。

問十三 この文章をまとめたものとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 現代の環境問題などさまざまな問題は自立型の技術によって人々の生活が孤立したことが原因であり、これらの問題の解決に向けて各地域のコミュニティで次なるパラダイムを議論することが重要となる。
- イ 現代の環境問題などさまざまな問題は現代人の孤立した生活が原因であり、これらの問題を解決するにはかつてのようにより便利さよりも人間関係の豊かさを重視するパラダイムへと移行する必要がある。
- ウ 現代の環境問題などさまざまな問題は「自立型孤立」というパラダイムを原因としており、これらの問題の解決に向けてかつてのような豊かさも取り戻せるように人間関係を丁寧にするべきである。
- エ 現代の環境問題などさまざまな問題はパラダイムが一気に変化したことを原因としており、これらの問題を解決するには急速な進歩を求めるのではなく「便利さ」と「豊かさ」の調和を目指さなくてはいけない。

問十二 次の一文が入る場所として最も適切なものを文章中の【1】～【4】の中から選び、算用数字で答えなさい。

そう考えると、「便利さ」と「豊かさ」のどちらをとるか、都市としての「豊かさ」はどうしたら手に入れられるか、という議論になります。

五

次のにあてはまる漢字をそれぞれ答えなさい。

- 1 彼女は才兼備の女性だ。
- 2 私と彼とはすぐに意気合した。
- 3 彼とはしばらく音信通だ。
- 4 多くの情報を取選択する必要がある。
- 5 どんな状況にも臨応変に対応しよう。

平成二十四年度入学試験（二次）
国語解答用紙

受験番号

番
氏名

五	四				三				二	一	解
	問十	問七	問四	問一	問十	問八	問四	問一	1	1	
1			3	1				1	2	2	2
		問八	4	2	問十			2			
2						問九 最初	問五		3	3	3
			問五	問二 A				5			
3					問十				4	4	4
	問十			B			問六	問二			
4			問六			最後			5	5	5
	問十			問三	問十		問七	問三			
5	【								5	5	5
	】	問九									
	問十								(ます)	(ら)	(い)
									(める)	(い)	
合計											得点

合計